持続可能な社会の探究Ⅰ　経済発展と環境

地理歴史科（地理）　沼　畑　早　苗
理　　科（物理）　朝　倉　　彬

1. はじめに

本講座は、環境問題の現状を理解し、解決方法を探るための議論・探究を行うことで、主体的に課題を発見し解決する力やコミュニケーション能力を養うことを目指すとともに、課題を解決するための具体的な方策を検討したり、他者の異なる意見をまとめたりする経験を通して、未来のグローバル・リーダーの育成をねらいとしている。

2. 今年度の活動内容

年度当初は、受講者25名が自ら設定した様々な探究テーマを持ち寄り、それを共有することで講座がスタートした。4月～6月は、課題探究を進める上で必要となる基礎的知識や論理的な思考力の基盤形成を促す時期と位置づけ、1年次に必修グローバル地理において学習した参考文献の探し方、論文執筆のためのルール、フィールドワークの手法等の探究スキルを確認した上で、文献やインターネットでは得られない情報入手を目的に、全員で東京大学工学部都市工学科都市デザイン研究室を訪問した他、生徒が自らのテーマに合った訪問先を設定し、聞き取り調査を実施した。また、国立環境研究所及び認定NPO法人から外部講師を招聘した授業を実施することを通じて、生徒の興味・関心を高め，主体的な学びを促していった。

7月以降は、研究テーマが類似する生徒どうしが5グループに分かれ、グループ単位で課題探究を深めつつ、その内容を発信する場として、「第17回高校生地球環境論文賞」（中央大学主催）、「第20回全国中学高校Webコンテスト」（特定非営利活動法人学校インターネット教育推進協会主催）への作品の応募を促した。これらの取組みを通して、期限を意識しながら進捗管理を行い、異なる意見・価値観を持つ他者と議論や調査等を重ね成果物をまとめ上げていくことにより、協働してより質の高い課題探究を目指すよう指導した（「第17回高校生地球環境論文賞」では1名が最優秀賞、1グループが優秀賞を受賞、「第20回全国中学高校Webコンテスト」では1グループが最終選考を通過し，総務大臣賞・プラチナ賞を受賞した）。

3. 本時のねらい

2年生（受講者25名）と1年生（次年度受講予定者22名）が、今年度の探究成果だけでなくテーマ設定や探究過程における苦労や失敗、成功経験を共有する時間とした。このことにより、2年生は自身の1年間の活動を振り返り、3年探究Ⅱへつなげることをねらいとし、1年生は、今後の本格的な探究活動の具体的イメージを獲得することで、来年度の探究活動の質的向上を図ることをねらいとした。

4. 本時の活動

午前の部　2年生「持続可能な社会の探究Ⅰ」の各講座代表生徒による成果発表
（本講座代表テーマ：「ウナギは未来に残せるか」）

午後の部　本時（13：00～14：00）

(1) 本時のねらいを説明

(2) 2年生による成果発表（午前の部で発表しなかったグループによる発表）

・「再配達を減らすには」　・「災害時の雨水活用」

・「間伐材を活用して森林を守る」　・「グローバル化時代の日本の農業を守る」

(3) 1・2年生合同のグループワーク

①1・2年生合同の10グループに分かれる（事前に2年生が座席表を準備）。

②講座年間スケジュールを参考にしながら，以下の項目について，1年生から2年生へインタビューを行ない，2年生は自分の経験を伝える。

ⅰ）探究スケジュール　ⅱ）テーマ設定　ⅲ）フィールドワーク

ⅳ）グループ協働作業　ⅴ）成果の発信の仕方　ⅵ）その他

③途中でグループ編成を変える（2回転）。

(4) ワークシートを用いた本時の振り返り

5. 実施効果と今後の課題

1年生からは積極的に質問が出され、それに対し2年生は自らの経験を丁寧かつ熱意を持って答えており、どのグループも活発な意見交換がなされていた。本授業の振り返り結果を見ても、2年生は「今日の発表会・分科会を通じて改めて自分の1年間の取組みを振り返ることができた」(96.0%)、「探究Ⅰの経験者として伝えるべきことを伝えられた」(92.0%) と回答し、1年生も「今日の発表会・分科会を通して探究の具体的なイメージをもてた」(92.0%)、「自分なりの疑問や課題に感じていたことを解消することができた」(96.0%) と前向きな回答がなされた。

1年生の自由記述からは、「協同作業だからこその楽しさや苦労があり、達成感があったと話す先輩たちの生き生きした姿が印象に残った」、「限られた時間の中で勉強との両立も簡単ではないと思うが、積極的に取組むことで得られるものがあると思った」など、先輩たちの苦労を受け止めつつ、今後の探究活動に意欲的に向かっていこうとする姿勢が示された。また、2年生からは「1年間を振り返ることで自身の成長を感じることができた」、「質問に答えることで、探究を進める上で大切なことを再認識することができた」、「後輩に伝えることで、もっともっと掘り下げたい欲が出てきた」などの記述がなされ、先輩から後輩へ探究経験を伝えていく本授業には1・2年生双方にとって大きな効果があったといえる。一方で、先輩にはなかった視点や弱点をいかに客観的にとらえさせ、課題解決に向けた活動につなげていくかは今後の課題である。